

2015年（平成27年）

ハタハタ情報 No.1

平成27年9月14日発行

中央水産試験場 資源管理部

Tel : 0135-23-8707 Fax:0135-23-8709

—後日にインターネットからもご覧いただけます— ↓

マリンネット北海道 : <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/index.html>

水試調査船北洋丸によるトロール調査（留萌沖）の結果を報告します。

【調査期間】 2015年9月8日～9月9日

【調査海域】 雄冬岬沖の水深230～300m付近の海域においてトロールを曳網し、ハタハタの採集試験を行いました。7調査点で計61尾（0歳魚を除く）の標本を採集し、体長測定などを実施しました。

- 採集状況は昨年を上回るも依然低水準（1マイル曳網あたり平均5.4尾）
- 1歳魚（2014年級）が80%以上を占める。2歳魚も魚体は小さく、組成は全体的に小ぶり
- 1歳魚の成熟状態は過去5年と同程度

1. ハタハタの分布状況（図1）

今回の調査では、44°N付近でニシン集群のため曳網ができませんでしたが、全体では1マイルあたり5.4尾の採集となり、過去最低となった昨年同期は上回ったものの今年も低い水準となりました。ただし8月末の調査では武蔵堆西側深みで多獲点があるなど、現時点では分布が偏っている可能性があります。

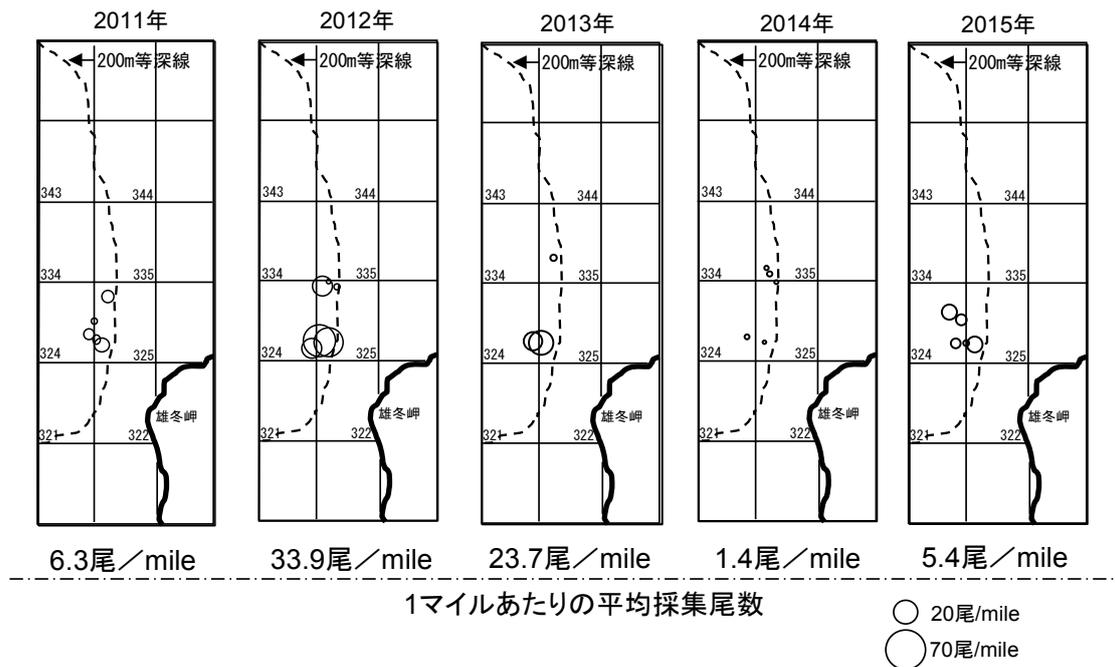


図1 9月トロール調査による採集尾数

2. ハタハタの魚体と年齢 (図2)

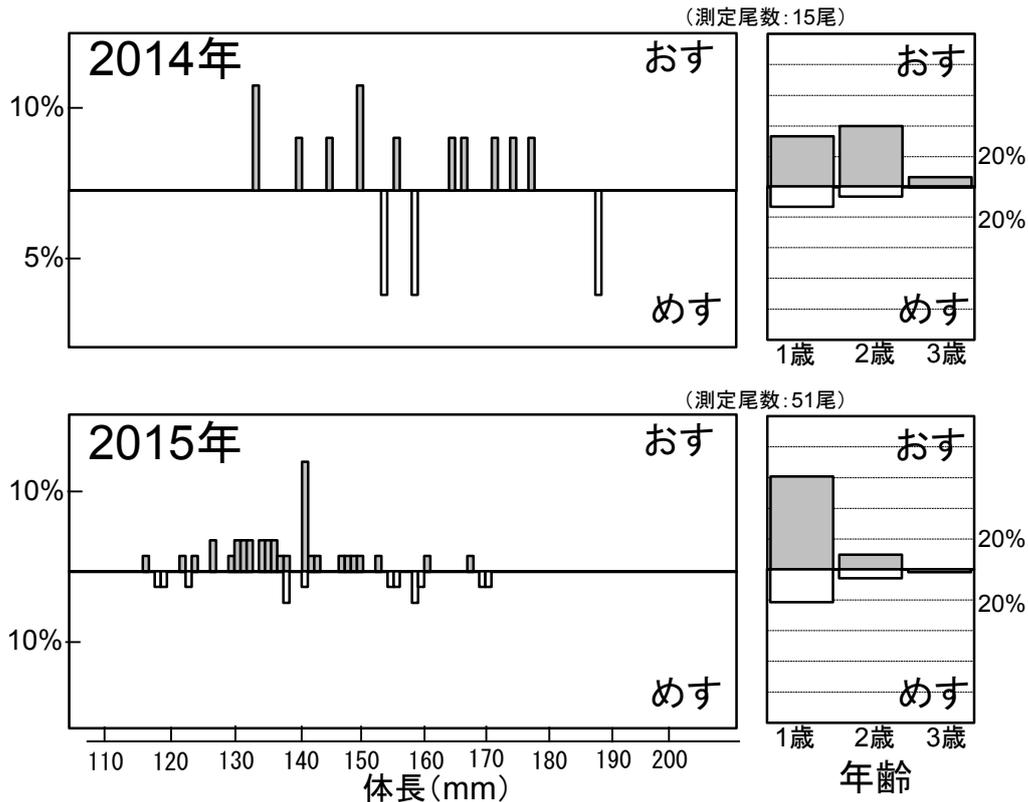


図2 今回の調査で採集されたハタハタの体長組成と年齢組成
上段図：昨年（2014年）調査 下段図：今回の調査

例年同様、この時期にはまだ雌の採集がほとんどありませんでしたが、雌雄あわせた年齢の内訳では1歳魚（2014年級）が80%以上を占めたことから、今季の資源は1歳魚主体となる見込みです。しかし、近年の傾向である「魚体の小型化」については今年も顕著であり、2歳のサイズもかつての1歳程度であり、1歳魚については成長悪く今季は成熟しない（沿岸に来遊しない）と考えられる個体も20%近く現れました。

3. 成熟状態 (図3)

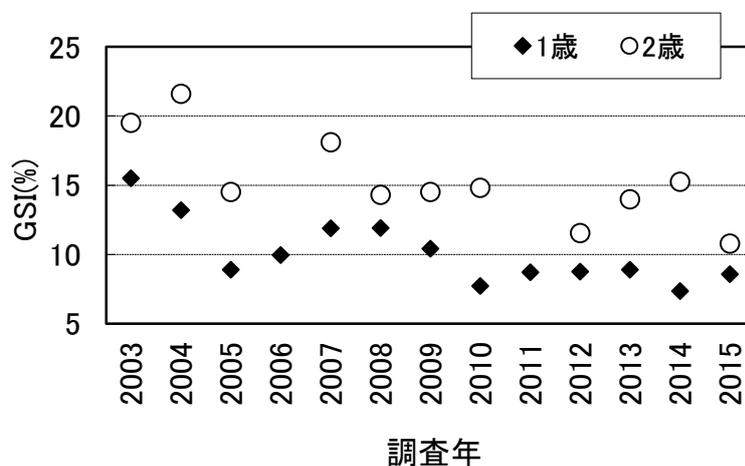


図3 毎年9月下旬のハタハタ雌のGSI (GSI=卵巣重量/内蔵除去重量×100)

ハタハタは成熟状態（生殖巣の発達状態）が進むにつれ、南下し沿岸にて産卵することが知られています。雌の体重に占める卵巣重量の割合（GSI）は産卵が近づくにつれて大きくなり、沿岸に来遊する頃には40前後の値となります。今回得られた標本のうち成熟状態にある雌個体のGSIに基づき、これまでの調査結果と対比するため9月末時点の値として推定しました。今季の主体とみなした1歳魚の成熟状態は昨年よりやや進行していたものの2010年以降の水準と同程度でした。昨季は2歳魚主体であったため沿岸への来遊がやや早まりましたが、今期については今のところ遅めの来遊になるのではないかと考えております。次回10月のトロール調査結果に基づき改めてお知らせする予定です。

4. 水温（図4）

今回の調査の中で行ったCTDによる雄冬沖（321漁区北側～325漁区南側の範囲）の表層から底層にかけての水温測定結果を、過去5年の平均値と併せて示しました。

過去5年は表層水温が特異的に高くなる年が数回ありましたが、今年については、表層はさほど高くはなく平年並み、100m付近までは最近5年と同程度、それより深いハタハタ生息水深帯では1℃程度高めとなっていました。

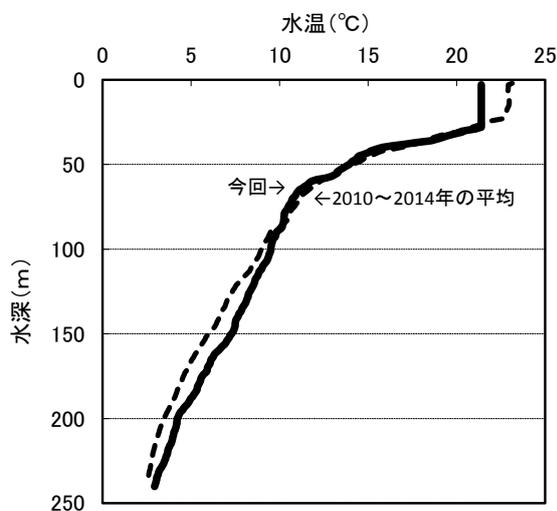


図4 雄冬沖の水温分布

5. 今後の調査など

次回の北洋丸によるトロール調査は、10月中～下旬に雄冬沖のハタハタ分布域を含む海域で、ニシン、スケトウダラの分布調査を兼ね実施する予定です。例年のことではございますが、付近の海域で操業中の漁業者の皆様には何卒ご配慮いただきますよう、よろしくお願いいたします。また、漁期中には漁獲物標本の採集調査も実施いたしますので、重ねてご協力をお願いいたします。